

飼料用米(夢あおば)の低コスト多収栽培技術の確立

要約

夢あおばの栽培特性の把握および、発酵鶏糞により肥料の一部を代替した低コスト生産技術を検討したところ、目標収量の580kg/10aを超えることができた。

しかし、より多収を目指すためには、栽植密度や鶏糞の施用量などの検討が必要である。

○ 展示のねらい

飼料用米への助成については、一般品種の助成水準を段階的に引き下げる方針が出されているが、専用品種の栽培特性等の把握が進んでいない。また近年、肥料の高騰が続いている。

そのため、導入が予想される専用品種「夢あおば」の栽培特性を確認するとともに、発酵鶏糞により肥料の一部を代替した低コスト生産技術を検討する。

目標収量：580kg/10a、栽植密度：53株/m²(畦間30cm×株間21cm)

表1 設計内容

区分	品種	移植時期	施肥(kg/10a)		N計
			基肥		
1 供試区	夢あおば	5月初～中旬	発酵鶏糞(2.8-3.9-2.9)	肥効調節型肥料(30-6-6)	N 12
			180kg	+ 30kg	
			N 3	N 9	
2 対照区	夢あおば	5月初～中旬	肥効調節型肥料(30-6-6)		N 12
			40kg		
			N 12		

○ 主な成果

穂数、1穂粒数は対照区が、登熟歩合、玄米千粒重は供試区が高い成績であった。その結果、収量は対照区が659.5kg/10a、供試区が593.4kg/10a(対照比90%)となり、地域の標準単収を上回った。しかし、更なる収量を得るためには、より窒素成分の高い堆肥や、適正な栽植密度(60株/m²)での移植が必要だと思われた。

表2 収量構成要素及び収量 (本/m²、粒、%、g、kg/10a)

調査区	穂数	1穂粒数	登熟歩合	玄米千粒重	粗玄米重	精玄米重 (1.7mm)
供試区	244.7	127	83	23.2	594.5	593.4
対照区	259.2	143	79	21.4	662.8	659.5

○ 今後の方向性

今回の展示ほで栽培特性等を把握することができた。来年度からは、本格的な専用品種の導入が進むと考えられるため、苗作りや栽植密度・病害虫防除など栽培の注意点を含む栽培方法の周知や積極的な堆肥の活用を呼びかけていく。

実施機関：芳賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：芳賀町

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315